

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	独自の理念を掲げている。		定期的に見直しをするべきか検討していきたい。
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	事務所、ホールに額に入れ掛け、日々目につくようにしている。		・理念の内容を見直ししたので、職員で取り組んで行けるようにする。働かせて頂いているという気持ちを持ち取り組む。・毎日の業務の中で理念を念頭に目標を持ち介護にあたるように努力している。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	「なごみ通信」の発行や、取組を町の広報などに載せて頂いている。		他の町立施設と協力し、地域への広報理解に努めていきたい。なごみ通信発行継続と必要に応じて広報に載せて頂く
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域の住民の方等に挨拶を交わすよう心掛けている。立ち寄ってもらえるまでには至っていないが、野菜を届けて下さる方もいる。又、近隣の施設の協力を得ている。(特養・養護・デイ)		閉ざされた雰囲気になっているような気がするので、もっと開放的で気軽に寄ってもらえる雰囲気作りに努めたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	近隣の施設の行事に積極的に参加している。又、文化祭に作品を出品し参加している。		地域の行事も減りつつあるが、出来る範囲で老人会、地域活動に交流を図って行きたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	個人的にボランティアに参加しているが、事業としてはしていない。		・缶拾い、ゴミ拾い等職員が積極的に参加するように努める。 ・町内会の行事に参加出来るように取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の自己評価・外部評価の結果を踏まえ、玄関の解放・入浴時間の見直し、各種マニュアルの作成を行い改善に努めている。		年に一度自己評価をおこなう。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を実施し、利用者、家族、地域住民、包括センター、市町村職員に取り組みなどを報告。話しあったことなど、実際のサービスに活かせるよう努めている。		定期的な運営推進会議の実行
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	情報提供は頻繁に行っている。研修の必要性を共通認識し、積極的に参加することにより、サービスの質の向上に努めている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在は必要ないが、管理者等は理解している。今後必要な場合は対応していく。		研修会への参加
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	研修会に参加し、事業所に戻り内容を発表し勉強会を行い、防止に努めている。又、利用者の声を聞き、虐待の形跡がないか注意を払っている。言葉の暴力などがあった場合、その場での注意があり防止に努めている。月に一度は全体で話し合いの機会を持ち、問題点の改善に努めている。		虐待についての勉強会をする。虐待があった場合は早急に会議等で話し合いを持つ。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入退所時に説明し、理解して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それを運営に反映させている。	特に機会は設けてはいないが、普段から会話を多くし、話を聞いたり様子を見て普段から話しやすい雰囲気に努めている。苦情窓口を設けているので、何時でも受け付けできるようにしている。外部者への機会は設けられていない。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	なごみ通信を発行し、職員の異動などについても報告している。又、なごみ通信、ケアプランの送付時に近況報告を行っている。		3ヶ月に1回なごみ通信発行している。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それを運営に反映させている。	運営推進会議を行い、意見等を受けている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議を定期的に行っており協議案件があればその都度話しあっている。また随時職員からの意見を聞いている		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じて勤務調整を行っている		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	個人の認知力も違い、不穏になる利用者もいるがきちんと伝え理解出来るように配慮し状態に応じて対応している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修機会を増やし、事業所での研修報告も行っている。</p>	<p>必要な研修に参加していきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>職場内での仕事のストレス、人間関係等の悩みの相談があった場合話しを聞き助言している</p>	<p>他の施設を見学したい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員に対し、運営者が面談を行い、仕事上の問題や悩みなどの聞き取りを行っている</p>	<p>ストレス軽減の為の取組を考えていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>研修会や講習会の参加を積極的に行っている。</p>	<p>向上心を持ち、資格取得者に対し同等の権利を与え、切磋琢磨する事により質の高いケアを行っていく。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>表情、行動を気に掛け、本人に問いかけなどして、素早く不安を取り除ける様努力している。日々、利用者と会話する時間を作るようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>面会の際には、話やすい環境づくり、受け止める努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際、家族、本人の希望のサービスが受けれるようにお話ししている		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前にご本人様と面会し家族にも家庭での生活の様子や馴染みの物等聞き安心して頂ける様に配慮している		スムーズな入所と、慣れた生活を維持できるようなケア
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の経験を聞き、畑作物の作り方などを教えて頂いている。		利用者一人一人を理解する。昔の苦労話をしたり、子供さんやお孫さんの話になると笑顔になることから、信頼関係を築いていきたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	随時相談している		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族会を開催し、本人との関わりを持つ様努めている。		家族会を続けていきたい。他の協力を頂き、家族と利用者の交流の場を作りたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人の訪問や電話しやすい状況にしている。		友人が遊びに来れる様な環境づくりの継続

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	心身の状況を把握し、孤立している利用者がある場合、こちらからの声掛け・寄り添いを行い、何をしてほしいのか引き出すよう心掛けている。自主性を尊重しながらも、孤立しないよう声を掛けたりと努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他の施設に入所しても利用者と一緒に面会に行ったり町で家族に会った際は声掛けをしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	少しでも希望に添えるよう努めている。孤立を感じた利用者には個別に話し合い、希望に添える様子対応している。		意思の疎通が困難な場合は、家族の情報を得たり、専門家の意見を聞いて対応していきたい。本人の希望に添えるよう努める。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日々の会話の中から出来る事が多く、本人から聞き出し把握し、それに合わせた対応に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	引き継ぎやケア日誌から把握している。		声掛けに行動して頂いたときには「ありがとう」の言葉を掛けるよう努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的な話し合い、意見やアイデアを反映し作成している。計画に対し、しっかり取り組み、活用出来ていると思う。		ケアマネージャーを中心にしっかり情報収集し把握するよう努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	最低3ヶ月の期間ごとに見直しを行っている。		家族にカンファレンスに参加して頂き、話し合う機会を持って行けるよう努める。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	プランに沿った記録を心掛け、日々のエピソードや気になることを記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	指定認知症(予防介護)対応型通所介護及び短期利用協働生活介護事業も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	希望に応じて参加している		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	特養・養護・デイサービスとの話し合い		町の行事に積極的に参加していきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて相談にのっていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	新たな治療が必要な際は、本人や家族にその旨を説明し、受診するようにしている。又、月1回の受診と状況に合わせ受診している。		必要に応じて家族に同行して頂いて一緒に受診をしている
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	一部の利用者は物忘れ外来を利用しているが、殆ど町内の病院で診察を受けている。		近くに認知症専門の病院がなく、適切な診断が受けられないため、家族への働きかけを行い、理解して頂き利用していきたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師がいないため、隣接施設の看護職員に普段から相談し緊急時に対応出来るようにしたり、病院の看護師とも普段から顔なじみになり相談、助言をしてもらえるように努めている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院訪問を2～3日置きに行い病院との情報交換できるように努めている		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所前に説明を行い理解して頂く様にしている		・利用者全員と、家族との話し合いが必要。少しでも長く生活して頂けるよう支援していきたい。 ・不安を抱えている家族にはその都度説明している。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	看護師が居ない為終末期のケアは難しいが医療行為が必要でない限りは病院や家族と話しあいながら対応している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p> <p>初回の家族との面会により理解して頂いている</p>		引き継ぎは詳しく行い、慣れた環境を維持していきたい。
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p> <p>馴染みの関係を築きながらも、節度をもった対応をするようスタッフに協力をお願いし努めるようにしている。個人情報パソコンで管理をしている。</p>		気になる声掛け等、皆が注意出来る環境づくりをしていきたい。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> <p>普段からお話しやすい雰囲気作りや本人の意思に合わせて対応できる環境づくりをしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> <p>過ごし方は自由にしている。一人一人のペースに合わせている。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p> <p>自己管理ができる方については、本人に任せているが、介助を要する方は必要な介護を行っている。理容や美容は本人の希望を聞き、通いなれたお店を利用するようにしている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p> <p>食事の準備の時は、声を掛け出来る範囲で手伝っていただいている。芋などの皮むきや、時々味付けも行っていただいている。又、食事の際は、職員も一緒に食事をし、楽しく食事出来る雰囲気を作っている。</p>		出来る利用者には手伝ってもらう工夫をしていく。地域や他の方との交流も含めて、楽しみが持てるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人より、好きなもの・嫌いなものを聞き、個人の希望に応じている。意思表示の出来ない方は、食事の様子を観察し希望に添えるようにしている。誕生日には、好みの食事を提供し、楽しみを持ってもらっている。		嗜好調査を実行したい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	本人の状況に合わせて、誘導している。又、毎日観察を行い、行動などを把握し誘導。スムーズに排泄を行えるよう支援している。失敗した際は、本人が落ち込まないように配慮している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	現在は、曜日・時間を決めていたがゆったり入浴できるよう配慮している。入浴拒否されたり体調不良で入浴出来ない時は別の日時で対応。		ゆとりある入浴時間に変更し対応に取り組んでいる。夜間浴に向けての取り組みを今後検討していきたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間、眠れない利用者には会話をしながら様子を見たり、場合によっては、お茶やおやつなどを提供したりしている。又、室内温度や静かさなどに気をつけ安眠できる環境を図っている。		床のきしみなどの改善と安眠できる環境づくり。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人の趣味に合った畑作りや買物、ドライブや近隣施設の行事に参加している。		楽しみや気晴らし等を見つけるように努めていきたい。一人一人にあった無理の無い役割をみつけていきたい。行事やレク等を行う。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買物と一緒に掛けたり、自己管理できる利用者には小遣いを自己管理して頂いている。好きなものを買いながらも、計画的に使えるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、行事を個人に合わせて対応。外に行きたいと希望する利用者には可能な限り職員付添えにて外出をしている。		もっと個人の希望に添えるよう職員の勤務調整を行い、外出できる機会を増やしていきたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	職員の勤務調整により、外出等をプランに組み込み施行している。		すべての利用者に平等に外出できるようにしたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話要望があれば対応している。		家族に理解を得て、もっと家族に電話し会話できる機会を作りたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自由に訪問・宿泊できるようになっているが、知人や友人などの訪問は少ない。		近隣の方や知人や家族が気軽に訪問出来るよう工夫したい。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	会議などで身体拘束の勉強会をしている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関の鍵はしていない。外に出る時は、職員付添、事故のない様配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮しながら、安全に生活して頂けるよう、常に職員が見守りできる体制を取っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	自室や周囲にある危険と思われるものは整理整頓をすることで、危険防止を図っている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々の状態に応じ「申し送り」「カンファレンス」により事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルは作成しているも、定期的な応急手当の訓練などは行っていない。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災・避難訓練を年2回行っている。緊急時の連絡網作成しており、地域の町内会にも緊急時の応援をお願いしております。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	転倒、喉つまりの危険のある利用者の家族には、その都度説明し理解して頂いている。		ご家族との連絡を密にし、日頃より信頼関係を作っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	食事や睡眠、排泄の状況を確認出来る様にチェックしたり体調の変化に気配り、引き継ぎ等で、情報の共有をしている。月1回の主治医の診察と隣接する特養施設の看護職員の協力を得ている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容の説明書は何時でも見れるようになっている。服薬の変化については、その都度引き継ぎを行っているが、薬の理解については不足していると思われ、職員全員が理解しているとは言えない。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄の状況を把握し、水分を多めに摂取したり運動量を増やすなど、個人に合った工夫を行っている。又、できるだけ薬に頼らずに排泄できるよう、乳製品や食物繊維を多く摂取するなどの工夫をし自然排便を促している。		風船バレーやリハビリ体操も取り入れている。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の歯磨きの声掛けや、週一回の洗浄剤での消毒を行っている。又、状態に合わせて介助を行っている。定期的又は状態に合わせて町内の歯科受診や往診をして頂いて治療や歯磨き指導受けている。		口腔ケアの勉強会を実施したい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日、摂取量をチェックし把握している。又、月1回(個々の体調によっては毎週)体重測定を行っている。		町のお店に食材不足しているのも現状。また栄養士がいないので、特養施設の管理栄養士の協力を今後も継続していきたい。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがいの徹底を行っている。食器・台所の衛生管理もしっかり行っている。		マニュアル通り対応できるように、研修の参加と学習会を行いたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材はこまめに買い物し、買い溜めをしない。調理器具は食毒し、衛生管理に努めている。食材は、新鮮なものを購入している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>春には、玄関にプランターの花を並べている。</p>		<p>スロープの照明が暗いので検討したいセンサー式ライトの設置等も検討</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>浴室については、洗濯場と脱衣室を兼ねており居心地の良い空間とは言えない。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>狭い空間で、自分のくつろげる場所がある方と、そうでない方がいる。</p>		<p>狭い空間でも、落ち着ける場所づくりを行いたい。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好きなものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>使い慣れた家具を使用し、本人の好みに合わせている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>夏はマメに行っている。冬季は掃除の際に行っている。冬季、暖房による乾燥を防ぐため、濡れたバスタオルをホール・各居室に干すなど工夫している。加湿器も使用し、温度と室温調整を行っている。</p>		<p>室温の管理の徹底窓を開けて空気の入替えをマメに行う。</p>
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内部はバリアフリーになっているが、トイレの手すりや廊下の広さ、手すり等充分では無く、コールなども実用的ではない。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者の残存機能を活かしたケアプランに組み込み職員で一貫したケアを行っている。</p>		<p>貼り絵や手芸、編み物、縫物の特技を活かした対応をしていきたい。分かる力を活かすため、本人の得意な事、食べ物、仕事の事など家族を交えて情報の確認できる機会を作りたい。</p>
<p>87</p> <p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>敷地内に畑・花壇があり、箱で稲も育てている。</p>		<p>南向きのベランダに洗濯物が干されており、花壇など利用者が見て楽しめない状況になっているので工夫していきたい。畑作も、一人一人区域を決めて、個人に合った畑作づくりをし、楽しみを作りたい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98 職員は、生き生きと働いている	<p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

理念を念頭に、利用者が穏やかに暮らせるように取り組んでいる。